

はじめに

現下の子どもの教育環境の中で、「学校支援」を超えた地域社会による教育と、ICTリテラシーの向上は喫緊の課題である。このため本研究では、ICT（KWM）を活用した、地域に根差した授業内容により構成された民間プログラムによる、子どもたちを対象としたノンフォーマル教育の場を設置し、ある中学校の授業におけるキーワードの記憶率との比較などにより、その可能性について考察することを目的とした。

考察

KWMを活用した、民間プログラムによるノンフォーマル教育の場の設置を試みた結果、地域において一定の指導者の供給及び学習者の需要が存在することがわかった。また、KWMによって可視化されたデータにより、生活の知恵・生業・趣味などの身近な事象の体験を通じた授業についても、その効果について可能性があることがわかった。さらに、本研究の授業と比較対象とした中学校授業では、授業内容や難度並びに強制度の差などにより一概に比較することはできないが、本研究の授業において学習者に伝えようとしたキーワードの記憶率は、同等かそれ以上であった。こうした結果を通じて、KWMによるノンフォーマル教育の場の可能性を示すことができた。

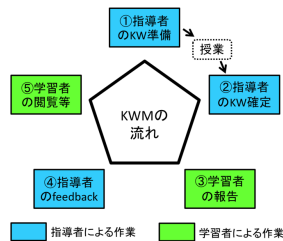
方法・結果

1.1 指導者の属性・学習者の募集・授業の実施

指導者	年齢	職業	担当授業
指導者 1	50 歳代	公務員・神職	神社参拝の仕方
指導者 2	60 歳代	建築業	ミニSL体験
指導者 3	50 歳代	農業経営	プロコリリーの収穫
指導者 4	50 歳代	会社員	バーベキュー体験
指導者 5	70 歳代	農業経営	漬物の漬け方

- ・地域に居住する 5 人の一般市民を指導者とした。
- ・チラシの配布により学習者を募集した結果、学習者として 18 人の子どもの参加を得た。
- ・授業は 2017 年 9 月から 11 月にかけて 5 回を実施した。

1.2 KWMの流れ



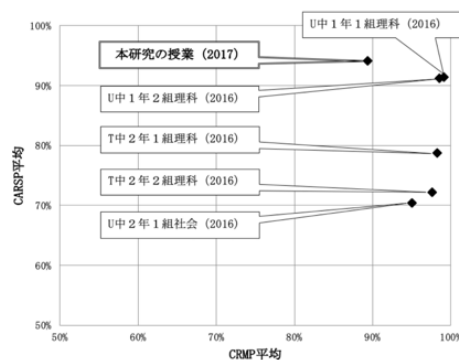
「①指導者のKW準備」の段階において指導者は、授業で伝える内容を、複数のkey words（以下「KW」という。）で整理する。KWは、「メインKW」（以下「M-kw」という。）と、M-kwを説明する「サブKW」（以下「S-kw」という。）で構成される。指導者は、M-kwとS-kwをWeb上に設定した上で授業を行う。「②指導者のKW確定」の段階において指導者は、授業内容に即してKWを確定する。KW確定後に学習者によるKW閲覧が可能となる。「③学習者の報告」の段階において学習者はWeb上で、記憶に残ったKWのチェック、補足希望の有無の意思表示、ノートや指導者への質問、気づきを記入し提出する。「④指導者のfeedback」の段階において指導者は、学習者の記憶状況等を確認した上で、ノートや質問に対する学習者へのfeedback（以下「FB」という。）をWeb上で行う。指導者は必要に応じて、学習者全員にFBを公開することもある。「⑤学習者の閲覧等」の段階において学習者は、指導者からのFBを閲覧する。なおKWMにおいてはFBの閲覧後もWeb上での継続的質疑応答（継続学習）が可能である。

2.1 M-kw, S-kwの事例（神社参拝の仕方）

	RMP	ARSP
M-kw	藤田神社とは（ふじたじんじやとは）	88.2%
S-kw-1-1	藤田郷・藤田氏（ふじたごう・ふじたし）	80.0%
S-kw-1-2	獅子舞など（ししまいなど）	100.0%
	ARSP →	90.0%
M-kw-2	神社とは（じんじやとは）	88.2%
S-kw-2-1	鳥居（とりい）	100.0%
S-kw-2-2	手水（てみず）	100.0%
S-kw-2-3	社殿（しゃでん）	93.3%
S-kw-2-4	御神木（ごしんぼく）	73.3%
S-kw-2-5	狛犬（こまいぬ）	100.0%
	ARSP →	93.3%
M-kw-3	参拝の仕方（さんぱいのしかた）	88.2%
S-kw-3-1	お経（おほらい）	86.7%
S-kw-3-2	祝詞（のりと）	53.3%
S-kw-3-3	玉串（たまぐし）	66.7%
S-kw-3-4	二礼二拍手一礼（にれいにはくしゅいちれい）	93.3%
	ARSP →	75.0%

n = 17

2.2 本研究の授業とある中学校授業との記憶率の比較の相関



2.3 KWMに関するアンケート

選択肢	人数	%
設問：授業で学んだ内容を、これからの自分の活動に活用したいか。		
非常に活用したい	4	28.5
活用したい	9	64.2
どちらともいえない	1	7.1
活用したくない	0	0.0
まったく活用したくない	0	0.0
合計（回答者 14 人、回答率 77.8%）	14	100.0
設問：KWM によって学習意欲がわいたか。		
非常にわいた	1	10.0
わいた	8	80.0
どちらともいえない	1	10.0
わかなかった	0	0.0
まったくわかなかった	0	0.0
合計（回答者 10 人、回答率 55.6%）	10	100.0

2.4 今回のノンフォーマル教育の場と寺子屋の入門年齢比較

	入門平均年齢	入門年齢最頻値	サンプル数
知行伝	10.3 歳	9 歳	n=18
寺子屋	8.1 歳	7 歳	n=52

知行伝と寺子屋の入門年齢を比較すると、入門平均年齢、入門年齢最頻値ともに、知行伝のほうが約 2 年長である。

これは、寺子屋や「読み・書き・そろばん」をほぼ白紙の状態から学習する場所であるのに対し、知行伝に参加するためには最低限の「読み・書き・ICT リテラシー」が必要であることが原因と考えられる。

注）寺子屋のデータは「寛政期寺子屋の一事例研究 - 伊勢国「寿福堂」を中心にして」梅村佳代、教育学研究 53(2)、151-160 ページ、1986 から著者が計算

2.5 神社参拝の仕方の授業風景



2.6 ミニSL体験の授業風景



2.7 プロコリリーの収穫の授業風景



2.8 バーベキュー体験の授業風景



2.9 漬物の漬け方の授業風景

